

平成7年度厚生省心身障害研究  
「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究」

ハイリスク新生児収容施設における多胎児の入院・管理状況 1

(分担研究：多胎児に対するケアのあり方に関する研究)

分担研究者：竹内 豊

要約：多胎児は早期産出生傾向と高い合併症発生率を有しハイリスクな状態にある。全国33のNICU施設を対象として多胎児の入院・管理状況を1991年から1993年までの3年間について調査した。多胎児の入院数は年を追って上昇していた。さらに多胎妊娠に占める不妊治療の比率も上昇していた。品胎以上の多胎児数が増加していた。管理状況を見るとNICU占有率、施設入院占有率とも経年的に多胎児が増加していることがわかった。

「目的」

次のような事柄を目的として調査した。

- 1,ハイリスク児としての多胎児入院数は年を追う事に増加しているか
- 2,ハイリスク多胎児の内、不妊治療によるものは増加しているか
- 3,多胎児の集中治療期間および入院期間は増加しているか

「対象と方法」

全国の厚生省心身障害研究にたずさわっているNICU施設にアンケート調査を行って、1991年から1993年の3年間のハイリスク多胎新生児の入院/管理状況について検討した。

検討対象とした施設は北海道立小児病院、市立札幌病院、岩手医科大学、仙台赤十字病院、新潟市立病院、群馬県立小児病院、茨城県立小児病院、埼玉県立小児医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、松戸市立病院、東京都立八王子小児病院、東京都立築地産院、日本赤十字社医療センター、東京女子医科大学、昭和大学、日本大学、神奈川県立こども医療センター、北里大学、静岡こども病院、名古屋市立大学、名古屋市立城北病院、愛知県心身障害者フロンティア中央病院、安城更生病院、藤田保健衛生大学、高槻病院、大阪府立母子保健総合医療センター、淀川キリスト教病院、神戸大学、香川医科大学、倉敷中央病院、福岡市立こども病院、聖マリア病院、鹿児島市立病院である。

「結果」

1.入院数

検討対象とした施設のハイリスク新生児収容ベッド数は1081床(年間394565)、集中治療ベッド数は299床(年間109135)であった。収容数の状況は表1に示す。

	1991	1992	1993
総入院数	9510	9727	9565
多胎児入院数	902	950	998
単胎入院数	8608	8777	8567
多胎%	9.5	9.8	10.4

3年間の間に多胎児の絶対数の上昇がみられ、総入院数に対する比率でも緩やかな上昇がみられている。

## 2. 多胎妊娠と不妊治療

表2 多胎妊娠と不妊治療

	1991	1992	1993
多胎母体数	501	528	554
不妊治療数	96	128	147
不妊治療%	19.2	24.2	26.5

この3年間のハイリスク新生児多胎の不妊治療による妊娠の割合は19.2%→24.2%→26.5%へと急速に増加していた。

## 3. ハイリスク多胎児の内訳

表3

	1991	1992	1993
双胎	771	796	818
品胎以上	131	154	180
平均在胎週数 <sup>w</sup>	33.2	33.1	33.7
平均出生体重 <sup>g</sup>	1657.1	1772.6	1775.0

胎児数別の組み合わせで児の数を見ると、特に品胎以上の児が著しく増加しており、先の不妊治療例の増加と組み合わせて考えると不妊治療による品胎以上の多胎が増加しているといえる。

## 4. 管理状況

表4

	991	1992	1993
人工換気日数	3991	5257	7534
NICU入院日数	14642	15825	18881
NICU占有率%	13.4	14.5	17.3
総入院日数	56028	58001	58799
入院占有率%	14.2	14.7	14.9

施設における管理状況を見ると、人工換気を要した日数は飛躍的に増加し、これに相まってNICU収容日数も増加しNICU占有率も増加していた。

「考察」NICUにおけるハイリスク新生児としての多胎児の割合は3年間で経時的に増加し、それらは不妊治療による多胎妊娠に基づく傾向があった。児の経過はより重症化しNICUベッドと入院ベッドを長期間占有する傾向が強くなっていった。NICUにおいて一挙に複数の児が、特に品胎以上の入院はベッド管理を含めて対応に苦慮することも多い。人工的な妊娠を企図するとき、家族への育児上の配慮も含めて胎児数を多くしすぎないように考慮してもらいたい。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:多胎児は早期産出生傾向と高い合併症発生率を有しハイリスクな状態にある。全国33のNICU施設を対象として多胎児の入院・管理状況を1991年から1993年までの3年間について調査した。多胎児の入院数は年を追って上昇していた。さらに多胎妊娠に占める不妊治療の比率も上昇していた。品胎以上の多胎児数が増加していた。管理状況を見るとNICU占有率、施設入院占有率とも経年的に多胎児が増加していることがわかった。